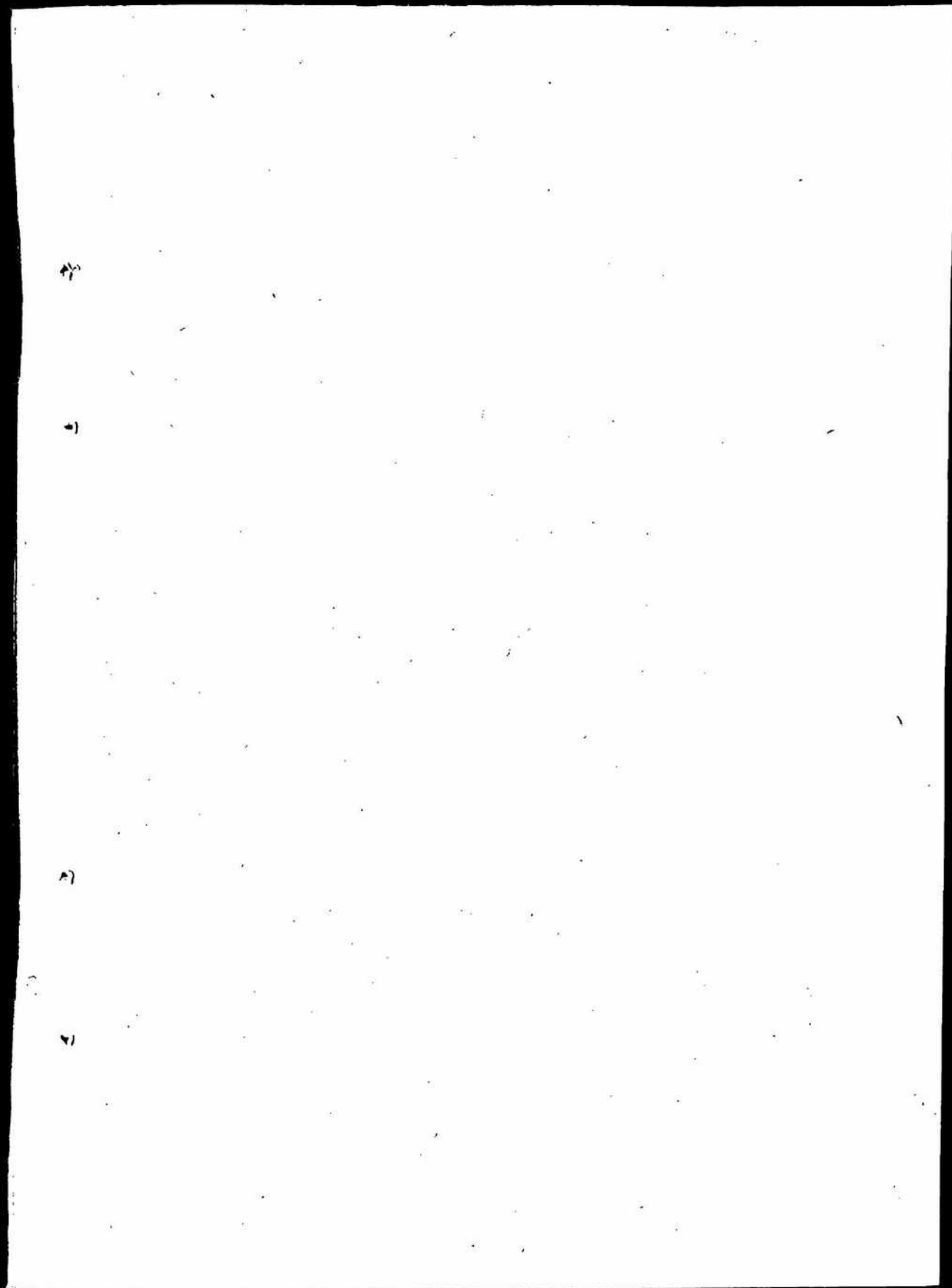




国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	15
	58-26

)



15
55-26

昭和十九年度

番号	月日	件名
一九鉄局二二九一	三月四日	電力節約及火気取締内件
一九鉄局二五二二	五月十日	所得稅法施行地内各電燈事務所所得件回答
一九鉄局三八六八	七月二十日	會計課地檢査調査報告件
一九鉄局四一七五	十月三日	昭和十九年度臨時地方費配付件回答
一九鉄局五二七	十一月十四日	戸口調査緊急動員要綱内件

洋
扉
紙

裏面白紙

官
席
背



昭和十九年 第 3868 號

接受 昭和十九年七月二十六日

接受ヨリ
起案マデ
ノ日數

日

決判
施行

昭和十九年七月廿八日
昭和十九年七月廿八日

洋紙回送用紙

鐵鋼局長

配給課長

特殊鋼課長

製鐵課長

會計實地檢查調書提出ノ件

案

年 月 日

局長

軍需大臣官房會計課長宛

件名

施行注意

別紙五部

（別紙起票

者三ツリ）

七月十七日附一〇九軍會課第一一四九號ヲ以テ照會
首題ノ件ハ別紙ノ通ニ付此段回答ス

會務ノ空位査査員等ノ件

（説明）當省會計實地検査ハ來ル八月一日ヨリ
同七日マデノ間ニ施行セラル、豫定

十ノ六ノ六

會計實施檢查資料（昭和十八年度分）軍需省鐵鋼局

一 昭和十八年度各種補償金、補助獎勵金等交付事業、施設概要

- (一) 特殊鋼製造技術研究費補助 一
 - (二) 製鋼原鐵製造獎勵金 四
 - (三) 銑鐵價格調整補給金 九
 - (四) 貧乏力以鑛使用費補助 二
 - (五) 特殊鋼配合原料增產獎勵金 五
 - (六) 製鐵業獎勵金 七
 - (七) 鐵鋼原料補償金 一
 - (八) 鋼材限定品種增產獎勵金 九
 - (九) 普通鋼材及半製品價格調整補給金 一
 - (十) 鐵鋼輸送陸運轉換補助金 二
 - (十一) 鐵鋼特別價格級獎金 二
- 二 昭和十七年度以前於々補助金ノ十八年度末精算未済額調
- (一) 特殊鋼製造技術研究費補助 二
- 三 昭和十九年度新規事業計畫及實施ノ現況
- (一) 鐵鋼特別生產方式研究獎勵金 三

三〇 二八 二七 二五 二三 二一 一九 一七 一五 一二 一〇 一

- (二) 緊要鐵鋼製品試作費補助
- (三) 鐵鋼原單位切下報獎金
- (四) 鐵鋼石價格調整補給金
- (五) 小型熔鑄爐銑鐵價格調整補給金

三三三三
八七六五

昭和十八年度各種補償金、補助獎勵金等交付事業ノ施設概要

(一) 特殊鋼製造技術研究費補助

施設概要

本邦特殊鋼製造業者ニシテ從來主トシテ輸入ニ依存シタル高級特殊鋼ニ付テ國産化乃至優良化ヲ圖ル爲其ノ製造方法ヲ研究ヲ爲ス者ニ對シ補助金ヲ交付スルモノニシテ昭和十八年度ニ於テハ豫算額ニ〇〇〇〇〇圓ヲ計上シ總額ノ交付ヲ了シタリ

昭和十八年度特殊鋼製造技術研究費補助金交付額調

科目	交付年月日	補助額	申請者	補助事業費 決算額	決算額	精算上 過不足額	決算報告 命返年月日
産業振興費	一九四二	4000	東京芝浦電氣鐵	4000			
製鐵獎勵 助給費	一九四二	4000	*	4000			
特殊鋼 製造技術 研究費	一九四二	4000	*	4000			
補助費	一九四二	4000	*	4000			
計		16000		16000			

一九四二	4000	特殊製鋼	90496
一九四二	4000	日本鋼管	2761
計	16000		64847



製鋼原鐵製造獎勵金
施設概要

鐵屑依存脱却ノ對策トシテ製鋼原鐵ノ製造ヲ促進セシメ銑鋼一貫
作業ニ依ル操作ヲ行ハシムルト共ニ之ニ依リ鐵屑使用ノ抑壓及高
級特殊鋼ノ生産増加ヲ圖ラントス
昭和十六年九月十六日公布商工省令第七十九號製鋼原鐵製造獎勵
金交付規則ニ基キ同規則第二條ニ該當スル者ニ對シ毎年四月十
日迄ニ獎勵金交付ノ申請ヲ爲サシメ當該年度ニ於ケル製造豫定數
量ノ製造ヲ終了シタル後昭和十六年九月十六日商工省告示第八百
十九號(昭和十八年四月二十三日商工省告示第三百七十二號改正)
ニ依リ算出シタル金額ヲ交付スルモノトス但シ特別ノ事情アル場
合ハ右ノ製造豫定數量ニ達セザル場合ニ於テモ其ノ實際製造數量
ニ對シ交付スルモノトス
昭和十八年度ニ於テハ當初豫算額五六〇〇〇圓入昭和十七年
度下期分六七〇〇〇圓昭和十八年度上期分三九〇〇〇〇圓
ヲ計上セル所別表ノ通り三八一五八〇七圓ノ交付ヲ了セリ

昭和十八年度製鋼原鐵製造獎勵金交付額調
十七年度下期分

科目	交付年月日	補助額	申請者	決算報告年月日
産業振興費	一八 九二〇	一六三三三圓	日本砂鐵鋼業株式會社 (高砂)	一八 四三〇
製鐵業獎	一八 八三一	〇	日本砂鐵鋼業株式會社 (八戸)	一八 六五五
勵語費	一八 九一八	一七七七〇	大同製鋼株式會社 (瀧野町)	一八 四一一
製鐵原	一八 九〇九	四〇九三	大同製鋼株式會社 (大津)	一八 六三六
獎勵金	一八 九〇四	六四六八	壽重工業株式會社 (大津)	一八 四三〇
	一八 九〇二	二七九〇〇	名古屋製鋼株式會社 (鳴海)	一八 四三〇
	一八 八二九	一七六八五	東亞重工業社 (八幡)	一八 三三〇
	一八 六三四	一七六八五	川崎重工業株式會社 (久慈)	一八 四三〇
	一八 八三一	六二五七六	日本高周波重工業株式會社(富山)	一八 四三〇
	一八 八三一	一八三三六	日本特殊鋼管株式會社 (大津)	一八 四三〇
	一八 八三一	〇	豐田製鋼株式會社 (刈谷)	一八 四三〇
	一八 八三一	一七三七七	日本青達株式會社 (新發田)	一八 四三〇
	一八 八三一	三八二〇一	三德工業株式會社 (秋田)	一八 四三〇
	一八 八三一	四八〇〇〇	東亞特殊製鋼株式會社 (戸塚)	一八 四三〇

十八年度上期分

科目	交付年月日	補助額	申請者	決算報告年月日
産業振興費	一九二二	九〇七五〇	日本砂鐵鋼業株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	四七八三三	大同製鋼株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	四九八八四	壽重工業株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	二一五五三	東亞重工業社	一九二二
獎勵金	一九二二	九五九一六	川崎重工業株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	五九四二四	日本高周波重工業株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	二六五四四	日本特殊鋼管株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	一四五五二	豐田製鋼株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	五五五二八	三德工業株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	二〇七二七	報國砂鐵製鍊株式會社	一九二二
獎勵金	一九二二	七六四〇〇	日本曹達株式會社	一九二二

一九二二	五二二〇一	帝國神鐵製鍊株式會社	(富山)	一九二二
一九二二	一六六六	株式會社日立製作所	(安)	一九二二
一九二二	〇〇〇〇	株式會社日立製作所	(海岸)	一九二二
一九二二	〇〇〇〇	日本特殊鋼管株式會社	(直江津)	一九二二
一九二二	〇	株式會社鐵興社	(酒田大濱)	一九二二
一九二二	二五八五	東邦重工業株式會社	(四日市)	一九二二
一九二二	四八四四	大江山三ツツ工業株式會社	(岩)	一九二二
一九二二	一八五〇〇	大江山三ツツ工業株式會社	(尾)	一九二二
一九二二	四二四六	日本特殊鋼管株式會社	(鬼石)	一九二二
一九二二	三三五六	理研工業株式會社	(平井)	一九二二
一九二二	一四六三六	日本曹達株式會社	(新橋)	一九二二
計	九〇〇〇〇			

一九三三	四三〇〇〇	東亞特殊製鋼株式會社 (戶塚)	一八〇三〇
一九三二	四七二〇〇	株式會社日立製作所 (安來)	一八〇三〇
一九三一	九三〇〇〇	日本スチレス株式會社 (直江津)	一八一〇五
一九三〇	三九〇〇〇	東邦重工業株式會社 (四日市)	一八一〇三
一九二九	一八四〇〇	大江山ミナル工業株式會社 (岩瀬)	一八一〇三
一九二八	四四四〇〇	(磐城工局)	一八一〇三
一九二七	六〇〇〇〇	日本鋼管株式會社 (新潟)	一八一〇三
一九二六	六〇一四〇	理研工業株式會社 (平井)	一八一〇三
一九二五	三六〇〇〇	日本エツケル株式會社 (鬼石)	一八一〇三
計	三六二五七八四		
合計	三六一五八〇七		

③ 銑鐵價格調整補給金

施設概要

銑鐵ノ増産ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアル處銑鐵生産業者ノ採算著シク悪化シ延テハ生産力擴充ヲ阻害スル虞アリ然ルニ銑鐵價格ノ引上ヲ爲スニ於テハ當然ニ鋼材價格ノ引上ヲ伴ヒ其ノ影響スルトコト著大ナルク低物價政策ノ堅持ヲモ困難ナラシムルニ至ルヲ以テ昭和十六年度下期以降銑鐵價格ハ現在ノ儘ニ据置キ他方補給金交付ノ方法ニ依リ銑鐵ノ生産力維持擴充ヲ圖リ來リタリ即チ鐵鋼原料統制株式會社ヲ價格調整機關トシ政府及鐵鋼統制會ノ監督指導ノ下ニ銑鐵ノ一手買取及賣渡ノ價格操作ヲ爲サシメ之ニ因リテ生ジタル損失ヲ國庫ニ於テ補給スルモノナリ

昭和十八年度各社別交付額左ノ如シ

會社名	昭和十七年度下期	昭和十八年度上期	計	備考
日本製鐵	四七一七四三三五〇	三九六三九〇五八八五	八六七五五九四二三五	
中山製鋼	九三七二〇八九五九	九八八七七八九九六	一九二五七八七九五五	
小倉製鋼	三七三八五三四八七	四二五六八五九三二	七九九五三九四一九	
尼崎製鐵	三三五一七五八一八	四二六三二七二三七	七五一四九三〇五五	
鐵鋼原料會社ノ借入金金利	四四八七四八七	一〇九三二一四五三	一三三八八九五九	
合計	六三三三三六九一〇一	五九一二七九九五〇二	一二二六六六八六〇三	

備考 豫算計上額左ノ如シ

十八年度本豫算(第八十一議會) 七二六四六一三〇圓
 第二豫備金 五〇三一九六六四
 計 一二二八六五七九四

昭和十八年度銑鐵買取價格補償金交付額調

科 目	交付年月日	補助額	申請者	補助事業費豫算額	決算額	精算不足額	決算報告
産業振興費 製鐵業獎勵諸費	昭和十八年 一月一日	六三三三三六九一〇一圓	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
銑鐵買取價格 補償金	昭和十八年 一月一日	四四八七四八七	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
産業振興費 製鐵業獎勵諸費	昭和十八年 一月一日	三三五一七五八一八	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
銑鐵買取價格 補償金	昭和十八年 一月一日	三三七二〇八九五九	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
銑鐵買取價格 補償金	昭和十八年 一月一日	三七三八五三四八七	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
銑鐵買取價格 補償金	昭和十八年 一月一日	三三五一七五八一八	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
銑鐵買取價格 補償金	昭和十八年 一月一日	四四八七四八七	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
軍需生産増強諸費 價格調整補給金	昭和十八年 一月一日	四四八七四八七	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
銑鐵價格調整 補給金	昭和十八年 一月一日	三三五一七五八一八	鐵鋼原料 統制株式 會社				昭一八八〇
合計		六三三三三六九一〇一					

④貧マシガン鑛使用費補助
施設概要

鐵鋼生産上不可缺ノ原料タルマシガン鑛ノ國內ニ於ケル開發ヲ促
進スル爲内地貧マシガン鑛ヲ使用シテオロマシガン又ハシリロ
マシガンヲ製造スル製鍊業者ニ對シテ之ヲ使用補助金ヲ交付スルモ
ノニシテ昭和十八年度ニ於テハ豫算額ニ九〇〇〇〇圓ヲ計上シ別
表ノ通り二八九萬九千圓ノ交付ヲ了シタリ

昭和十八年度貧マシガン鑛使用費補助金交付額調

科 目	交付年月日	補助額	申請者	決算報告年月日
産業振興費	一九四四年四月七日	一八五、一三圓	日本曹達株式會社	一九四四年四月七日
鑛業振興費	四二七	七九、四四二	日本鋼管株式會社	一九四四年四月九日
貧マシガン鑛使用費補助	四二七	一九六、一三	日本電氣株式會社	一九四四年四月八日
	四二一	一三、二八八	日本電氣冶金株式會社	一九四四年四月四日
	四二一	二、三〇八	北海電化工業株式會社	一九四四年四月四日
	四二七	一五、七五二	中央電氣工業株式會社	一九四四年四月九日
	四二七	一〇、八六八	大同製鋼株式會社	一九四四年四月六日
	三三五	一六、三八〇	高知電氣工業株式會社	一九四四年三月六日
	四二八	四六、三〇〇	株式會社鐵興社	一九四四年四月四日
	四二七	三、五四一	昭和製鍊株式會社	一九四四年四月六日
	四二七	一、八九二	赤谷製鐵株式會社	一九四四年四月八日
	四二一	一、三八五	昭和鐵合金株式會社	一九四四年四月四日

計	三九五	四一七	四二一	四一七	四二七	四二七	一九四一七
	二八九九三	四四四四	六六七七	三四五四	一、一四四	七二一六	二七四四
	淺野セメント株式會社	中外鑛業株式會社	鈴木兼重	信越化學工業株式會社	北海電氣工業株式會社	磐城セメント株式會社	合資會社盛岡電化工業所
	一九三六	一九四六	一九四四	一九四六	一九四七	一九四七	一九四六

因特殊鋼配合原料増産獎勵金

施設概要

現下軍需要資材トシテ重要ナルニツケル及ロバルトノ海外輸入ヲ脱却シ自給ヲ圖ルノ要緊急ナルモ、ナリ然ルニ國內産鑛石ハ極メテ低品位ニシテ生産原料相當高價トナルヲ免レザル一方之ガ販賣價格ノ引上ハ低物價政策ノ堅持ヲ困難ヲラシムルニ至ルヲ以テ國內産鑛石ヲ原料トシテニツケルニハルトヲ生産スル者ニ對シ生産量ニ應ジテ相當ノ獎勵金ヲ交付シ以テ斯藥ノ確立ヲ圖リ資源ノ開發ヲ促進セントス

昭和十八年度豫算一〇〇〇〇〇圓ヲ計上セル所別表ノ通り六八〇八八三圓ノ交付ヲ了セタリ

昭和十八年度特殊鋼配合原料増産奨励金交付額調

科目	交付年月日	補助額	申請者	決算報告年月日
産業振興費	大九四二八	四六一九圓	住友鐵業監	一九四五
鐵業振興費		三一五四五圓	日本ニツケル監	四一五
特殊鋼配合原料増産奨励金		五六〇四一六圓	日本冶金工業監	四一五
		三七六七五圓	鴨川ヨシヅカ工業監	四一五
		五一二八圓	住友鐵業監	四一五
計		六八〇八八三圓		

(六) 製鐵業奨励金

施設概要

大正十年本邦造船業奨励ノ爲造船用鋼材ヲ輸入移ヲ免除セシメテ以テ同時ニ國內ニ於ケル斯種鋼材製造業ヲ保護スルニ必要ヲ生ジ本制度ヲ創設セルモ其ノ後爲替管理ノ強化戰爭ノ勃發等固ク外國品ノ輸入ニ困難トナリ國産品ニ對シテ壓迫セ減少スルに至リテ本制度ニ於テモ豫算一八九四〇五〇圓ヲ計上シ別表ニ通テ交付ヲ了シタリ

昭和十八年度補助金交付額調

科	目	交付年月日	補助金	申請者
産業振興費	製鐵業獎勵諸費 製鐵業獎勵金	一九三三・九	四六六五七六五五	日本製鐵
		一九三三・二	三一九七〇四五二	
		一九三三・九	七五八四六九九	
		一九三三・一八	四六九五八八五〇	日本鋼管
		一九三三・二九	一〇六〇三九九七	
		一九三三・二六	三〇一七九六六一	川崎重工業
		一九三三・二九	三三三三〇四九〇	
		一九三三・二五	八九九五三二五	住友金屬工業
		一九三三・二五	三三三三三九九七	三菱製鐵
		計		一八九三九六五八六

出鐵原料補償金
施設概要

昭和十四年秋頃より製鐵用輸入原料ノ昂騰ニ因リ製鐵業者ノ採算
 狀況極メテ悪化スルニ至リ之ヲ其ノ儘ニ放置セシカ鐵鋼生産力ノ
 維持擴充ニ重大ナル支障ヲ及ボス虞アリタルニモ不拘一方低物價
 政策ノ堅持ヲ要請セラルル情勢ニ鑑ミ不取敢之ガ應急對策トシテ
 昭和十五年七月三日製鐵用輸入原料配給等統制令ヲ制定特定ノ統
 制機關(鐵鋼原料統制株式會社)ヲシテ製鐵用輸入原料ノ配給統
 制ヲ行ハシムルト共ニ同社ガ買取、賣渡價格操作ニ依リ生ジタル
 損失ハ國庫ヨリ補償スルコトトセリ 斯シテ政府ニ於テ昭和十五
 年度以降補償金ヲ交付シ來リタル處昭和十九年四月以降爲替交易
 費調整特別會計ノ設置ニ伴ヒ各種差損金ハ同會計ヨリ支辨セラ
 ルコトトナリタルヲ以テ昭和十八年一月ヨリ同三月マデニ同社ニ
 生ジタル損失額四六四九三三〇六四五圓(同社借入金利子ヲ含ム)
 ニ付十八年度追加豫算トシテ三五〇〇〇〇〇〇圓十八年度第二豫
 備金トシテ一六四九三三〇七圓計四六四九三三〇六圓四五ノ交付
 額所ニ依リ別表ノ通り四六四九三三〇六圓四五ノ交付額ヲ了シタリ

昭和十八年度鐵鋼原料補償金交付額調

科目	交付年月日	補助額	申請者	補助事業費決算額	精算上 過不足額	決算報告及返還 命令年月日
産業振興費	昭和十八年四月一日	1,000,000	鐵鋼原料統制			昭和十八年四月一日
製鐵業獎勵諸費						
鐵鋼原料補償金		1,000,000				
製鐵用輸入原料補償金						
補償金		1,000,000				

（四）鐵材限定品種増産獎勵金
施設概要

近時鐵材中特ニ厚板、筒管、線材ノ限定品種等ニ對スル需要極メテ熾烈トナリ特ニ陸海軍並ニ生産擴充方面ノ要請之ニ集中シタルヲ以テ現有設備ヲ極端迄稼働シ技術的困難並ニ採算制レモ全ク無視シ之ヲ増産セシメンガ爲メ鐵鋼販賣統制株式會社ヲシテ其ノ賣買ニ依リ價格操作ヲ行ハシメ因テ生ジタル立替金ヲ増産獎勵金トシテ交付ス

而シテ昭和十八年度ニ於テハ前年度ニ引續キ昭和十八年三月分トシテ一〇六八二〇〇圓及昭和十八年四月一日ヨリ昭和十九年二月二十九日マデノ分トシテ一三六六五圓三圓七九ヲ交付セリ

昭和十八年度鋼材限定品種等増産奨励金交付額調

科目	交付年月日	補助金	申請者	決算報告
産業興費 鋼材限定品種 増産奨励金	昭一八八三	一〇六八二〇〇	鐵鋼原料統制(株)	昭一八年八月三
鋼材限定品種 ノ他増産奨励金	昭一九三三	七六九四四七		昭一九三三
奨励金		七四一七四三		

備考 豫算計上區分左ノ如シ

十八年度追加豫算(第八十一議會) 一〇六八二〇〇
 十八年度第一豫備金 八六六四四三

計

九三三二七四

(九) 普通鋼材及半製品價格調整補給金
 施設概要

鐵鋼ノ生産確保ヲ圖ルト共ニ一方並ニ低物價政策ヲ堅持スル
 爲メニ閣定セラレタル一價格調整補給金制度要綱ニ基キ統
 統補償金制度ヲ適用テ受ケザル製鋼業者及壓延業者ノ生産ス
 ル外賣ノ普通鋼材及半製品ニ付標準生産費ヲ以テ鐵鋼販賣
 統制株式會社ニ於テ一手ニ買取リ現行公定價格ヲ以テ販賣セ
 シメ之ニ依ル差額額ヲ補庫ヨリ鐵鋼販賣統制株式會社ニ補助
 ヒントスルモナリ
 而シテ昭和十八年度ニ於テハ該ニ議會ノ協賛ヲ經タル重需調
 係資材確保損失補償金ヲ豫算外契約限度ニ基キ上期一八五〇
 〇〇〇圓及下期一八四五四一四圓ノ豫算外補給金一三三二五
 ナ締結シタル所ニアリ昭和十八年度上期分補給金一三三二五
 六九〇圓九三ナ交付セリ

普通鋼々材及同半製品價格調整補給金

科目	交付年月日	補助額	申請者	補助事業費後算額	決算額	精算上決算額 過不足額
軍需生産増強諸費 價格調整補給金 普通鋼々材及 半製品價格調 整補給金	昭十九年度	一三三二五六九〇九三圓	鐵鋼販賣統 制株式會社		一三三二五六九〇九三圓	昭十九年度

(中) 鐵鋼輸送陸陸轉換補助金

施設概要

戰局の進展に伴ひ海上輸送の著しき逼迫が告ぐるに至り從來多
 海運に依存し居りたる鐵鋼の輸送ハ之ヲ板力陸運に轉換せ
 鐵鋼の圓滑ナル生産及配給ヲ期ヒシトス然ルニ陸上輸送ニ
 ルトキハ海上輸送に比シ遙ニ輸送費ノ割高トナリ爲各業者の經
 理内容ヲ著シク壓迫シ之ガ實行ニ支障ヲ來スル虞アリテ鐵
 鋼販賣統制株式會社ヨリ各業者ニ對シ陸上輸送轉換ニ伴フ増加
 經費ヲ國庫ヨリ補助ヲ受ケ支拂フモノトス
 而シテ昭和十八年度ニ於テハ鐵鋼協會の協賛ヲ經タル軍需關係
 資材配損失補償ニ關スル契約限度額ニ基キ總額七八五三三三
 四圓(上期三三五七三三三三圓)豫算外契約ヲ右兩者ト締結シ
 上期分ト下期分トテ七四七九八圓四二ヲ十八年度ニ交付セリ尚下期
 分ハ十九年度ニ交付ヲ決定セリ

昭和十九年度鐵鋼輸送陸運轉換補助金交付額調

科目	交付年月日	補助金	申請者	補助事項	決算額	精算上 不足額	決算報告 年月日
軍需生産増強諸費 價格調整補助金 普通鋼材 半製品價格 調整補助金	昭十九年三月 昭十九年三月 昭十九年三月 昭十九年三月 昭十九年三月	四七九八四二 四七九八四二 四七九八四二 四七九八四二 四七九八四二	鐵鋼販賣統 制株式會社	精算不足額	四七九八四二	昭十九年三月	昭十九年三月

(四) 鐵鋼特別價格報獎金
施設概要

鐵鋼ノ生産確保ヲ圖ランガ爲ニ閣定セラレタル「價格報獎制度要綱」、昭和十九年二月決定「鐵鋼特別價格報獎制度要綱」ニ基キ、**鐵鋼**ニ於テ生産セラレタル**銑鐵**、**鋼塊**並ニ**鋼材**ニ付本制度ヲ適用ス

即報獎金ハ生産割當數量ヲ基礎トシテ決定セル基準生産數量ヲ超エ増産セル工場ニ對シ其ノ超過生産數量ニ總人件費ノ一定割合ノ範圍内ニ於テ増産遂行率ニ應ジ増産的ニ定メタル報獎單價ヲ乘ジ決定シ之ガ實施機關タル鐵鋼原料統制株式會社（銑鐵）及鐵鋼販賣統制株式會社（鋼塊並ニ鋼材）ヲ通ジ當該期經過後増産セル各製造業者ニ報獎金ヲ交付ス

而シテ昭和十八年度下期ヨリ實施スルコトトシ鐵鋼會ノ協賛ヲ經タル軍需關係資材確保損失補償ニ關スル予算外國庫負擔契約限度額ニ基キ下期分トシテ八三、五〇〇、〇〇〇圓ニ付十九年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ鐵鋼原料統制株式會社ト締結ナリ

昭和十九年度以前に於ける補助金ノ十八年度末精算未済額調
特殊鋼製造技術研究費補助

昭和十七年度交付分（延期中）

交付先	補助金	査定豫算額決算額	返還所要額	決算報告年月日	返還命令年月日	返年月日納
住友金屬工業總	三〇〇〇〇	九〇〇〇〇〇				
日立製作所	五〇〇〇〇	九〇〇〇〇〇				
東北金屬工業總	二〇〇〇〇	一、二七一〇〇				
日本冶金工業總	一〇〇〇〇	三六九四九六				
大同製鋼	二〇〇〇〇	一三五六一七〇〇				
日本特殊鋼	五〇〇〇〇	四三〇〇〇〇〇				
東京芝浦電氣總	五〇〇〇〇	二、三二八〇〇				
日本製鐵所	一五〇〇〇	一六八二一〇〇				
神戶製鋼所	五〇〇〇	五四一六〇〇〇				
德山鐵板	二〇〇〇〇	五一、六〇七〇〇				
日本高周波重工	五〇〇〇〇	四四六〇一二七				
計	一五、〇〇〇	二七〇〇〇〇〇	四、五五〇〇〇〇			

昭和十六年度交付分（延期中）

日本特殊鋼管	一〇〇〇〇	三〇、五八七〇〇				
東京芝浦電氣	五〇〇〇	一五、三五〇〇〇				
計	一五、〇〇〇	六五、八三七二三				
豐田製鋼	一、二〇〇〇	一五、六六五七一				
日本電解製鐵	二〇〇〇〇	五八、九八〇〇〇				
日本特殊製鋼	四、五〇〇〇	一五、〇〇〇〇〇				
計	七、七〇〇〇	二、二四六、四五七一				

(一) 昭和十九年度新規事業計畫及實施ノ現況
 (二) 鐵鋼特別生產方式研究獎勵金
 (三) 事業計畫

戰局ノ推移ヨリシテ普通鋼並ニ特殊鋼ノ鐵源並對スル燃大ナル需
 要ヲ充足スル爲ニハ現有設備ヲ最高度ニ活用スル外資材ノ時間
 費並ニ要領ノ定メ製鐵方式ヲ採用シ其ノ研究完成ヲ國家ニ於テ助
 成シ以テ急速ナル確立ヲ期シ鐵鋼生産ノ飛躍的増産ヲ要請ス應也
 必ガ爲照和十九年度ニ於テ五〇〇〇〇〇圓ヲ豫算セリハ内閣別紙
 (四) 特別増産方式ノ研究

從來利用價值乏シキ國內粉狀褐鐵礦、低級褐鐵礦、サウニウム
 多ク砂鐵低級石灰ノ活用等ノ研究ヲ促進セシムト久而モ時間
 的要素ハ重大ナルヲ以テ短時間ニ研究ノ實施ノ可能性多ク左ノ
 方策ヲ採用助成セシトス

(A) 廻轉爐ニ依ル厚川式及綿織式製鐵法ノ研究
 從來ノ廻轉爐ニ依ル製鐵ハ火焰ノ調節ヲ可燃性鐵滓ノ生成
 耐火煉瓦ノ熔損等ノ諸點ニ於テ困難多ク能率上リサリシガ廻
 轉爐並電流並電磁場ヲ生ゼシムルコトニ依リ任意ノ鐵滓ヲ
 生ゼシム而モ一粒ノ成長ヲ促シ得ルヲ以テ操業ハ著シク安定

セシム得ル實驗ニ成功セリ、本著想ハ未ダ歐米ニ於テモ試ミ
 居ラザルモノニシテ任意ノ鐵滓ヲ生ゼシメ操業ヲ得ル點ニ於
 テ會テハツヒト法ニ於テ失敗セシ鐵滓トヒメトクリンカーヲ
 生ゼシムル點モ併セテ解決シ得ル曙光アリ
 本法ハヒシムル點モ併セテ容易ニ利用シ得ルヲ以テ至急現場ニ於テ
 工業化實施ヒシトシトス
 (B) 銅鐵ヨリ銑鐵ノ製造研究
 銅鐵ノ利用ハ船腹並ニ國內資源ノ逼迫ニ應ジテ早急ニ解決シ
 置クベキ事項ナルヲ以テ現在國內ニ存在セル約五千萬應ニ達
 スル銅鐵ヲ利用シテ銑鐵ヲ製造ヒシトスルモノニシテ廻轉爐
 ニヨリ分解シ易キカルシウムダイシリケート鐵滓ヲ作り鐵分
 ノ分離ヲ圖ル方法ハ理論並ニ實驗ニ成功シ居ルヲ以テ早急ニ
 工業化試驗ヲ實施ヒシトス

(C) 含銅硫化鐵礦ノ利用研究
 現在鋼中銅分ノ増加ハ鐵鋼生産上ノ重大問題ナルガ故鐵的銅
 分多ク硫化鐵礦ハ之ヲ小爐高爐ニ裝入シ銅分高キ銑鐵トナシ
 之ヲ電氣分解ニヨリ純鐵ト銅トニ分離スレバ石二島ノ方策
 ナルヲ以テ需要急増ヒル純鐵製造工場ニ之ヲ研究實施ヒシト
 ントス

(D) カルシウムシリサイド利用並ニ製造ノ研究
 鐵鋼ノ増産並ニ滿倚資源ノ枯竭ニ伴ヒアルニウム、フエロ

マンガン、ワニシリコン不足の加重スル見込ナルヲ以テ之ガ代用品トシテ脱酸力強力ナルカルシウムシリサイドヲ使用セシメ以テ合金鐵不足ノ緊急時態ヲ緩和シ合セテ良質鋼ノ生産ヲ圖ラズ

カルク、ウニシリサイドノ獨逸ニ完ハ現存盛ニ使用シ居ルモ本邦於此ハ之ヲ研究不足ニ爲未ダ使用普及シ居ラズ且少之製造セル會社モ一二ニ過ラザル狀態ヲ以テ緊急強力ナル研究製造ヲ行ハシムルニ決意スルヲ以テ

④ 亦泥ノ利用ニ關スル研究

① アルミナム工業ノ残渣タル赤泥ヨリ鐵及一アミチヲ抽出シ得ルモノト可能ニシテ先ニ内閣顧問會議ニ於テ之ヲ利用對策ノ研究ヲ至急具體化スルコト決定セリ、獨逸ニ於テモ全面的ニ之ヲ利用ヲ圖リ居ル實情ナルニ合理シ我國ニ於テモ十九年度ニ於テハ赤泥約二五万吨生ズベキ見込ニ付之ヲ利用シテ統鐵アルミチヲ生産セントスルモノナリ

② 熔滓式瓦斯發生爐ニ依ル低級石炭ノ活用研究

從來ノ良質石炭ノ使用ニ適シタル水封式瓦斯發生爐ヲ以テシテハ低級石炭ヲ利用スルニ不可能ニシテ熔滓式瓦斯發生爐

方式ヲ採用セザルベカラス

之ガ工業化試驗ヲ至急實施シ發生爐設備ヲ轉換ヲ極力指導シ以テ低級石炭ノ活用ヲ圖ラントス

④ 低品位滿庵鐵ヲ鑄鐵ノ製造ニ關スル研究

電氣爐ニテ處理シ得ザル高硅素低滿庵鐵石ハ我國ニ相當埋藏シ居ルヲ以テ之ヲ小型高爐ニ裝入シ滿庵分率五%乃至三〇%ノ鐵トシ以テ電氣爐位ニ平爐裝入優良滿庵鐵石並ニアルモノヲガシテ節約セシムントスルモノニシテ之ガ爲小型高爐業者ヲ指導シ迅速ニ之ガ製造研究ヲ行ハシムルモノトス

⑤ 土窯式製鐵法ノ研究

陶器窯ニ似タル簡單ナル爐ヲ築キテ容易ニ海綿鐵ヲ製造シ得ル試驗瀨戸陶業試驗所ニ於テ完成セルヲ以テ之ヲ鐵鑛資源地(小鐵量地)ニ築爐シ以テ工業化試驗ヲ行ハシトス

(ロ) 實施狀況

本件ニ關シテハ研究事項多數ニ亘ルヲ以テ各事項毎ニ決定ヲ急ギツツアリ

鐵鋼特別生產方式研究獎勵金内譯

事項	金額	備考
一 厚川式及綿織式製造法ノ研究	1,500,000圓	
二 鋼鐵ヨリ銑鐵ノ製造研究	700,000	
三 含銅硫化鐵ノ利用研究	500,000	
四 カルシウムシリサイド利用並製造研究	500,000	
五 赤泥ノ利用研究	500,000	
六 熔滓式瓦斯發生爐ニヨル低級石炭ノ活用研究	300,000	
七 低品位滿鐵ヨリ銑鐵ノ製造研究	300,000	
八 土窯式製鐵法研究	1,000,000	
計	5,000,000	

(三) 緊要鐵鋼製品試作費補助

(イ) 事業計畫

鋼索、熔接棒、高壓容器、鑛山ボイラ等ハ軍需、造船並ニ生産擴充用トシテ需要急激ニ増加セルニ拘ハラズ供給極度ニ逼迫シ之等産業ノ擴充用ハ勿論其ノ維持、補修用スラ供給不足ヲ告グ居ル状態ナルヲ以テ昭和十九年度ニ於テハ之等緊要鐵鋼製品ノ最少限所要量ノ生産確保ヲ圖ルノ要アリ

然ル處現在ノ鐵鋼製品生産設備ハ低能率ナルモノ多ク之ガ改良ニ依リテ三倍乃至十倍ノ生産増加ヲ期待シ得ルモノナキ該業者ハ殆ド中小工業者ニシテ斯ル創意ト工夫ニ乏シク且其ノ熱意ハ缺クル所アルヲ以テ此ノ際政府ハ別途鐵鋼製品製造技術委員會ヲ設置シ生産設備ノ改善研究ヲ行ハシメ其ノ結果ニ依リ技術ノ指導ヲ行フト共ニ特定ノ優秀工場ヲシテ之ガ研究試作ヲ擔當セシメ之ニ要スル經費ノ一部ヲ補助セントスル

(ロ) 實施ノ現況

本件ニ付テハ目下研究項目及之ヲ擔當工場等ニ付慎重檢討中ニシテ成案ヲ得次第實行ヲ促進スルク準備中ナリ

③鐵鋼原單位切下報獎金
事業計畫

現下ニ於ケル船復ノ實情ニ鑑ミルニ今後ニ於ケル鐵鋼ノ増産ハ大陸方面等ヨリノ鐵鑽石、石炭等ノ増産ノ方法ニ依リ之ヲ達成スルコトハ著シク困難ナル情勢ニモ不拘戰局ハ鐵鋼ノ増産ヲ要請スルコト切ナルモノアルヲ以テ其ノ最モ可能且有效ナル方法トシテ昭和十九年一月十一日閣定「原單位切下報獎金制度要綱」ニ基キ昭和十九年度普通鐵鋼、特殊鐵鋼ノ鐵鋼一般ヲ通ジ之ガ製鐵所ヲシテ原單位計算ヲ確立セシメ原單位ノ切下ヲ極力獎勵シ原單位量ノ使用ニ依リ最大ノ製品ヲ獲得スルニ其ノ全力ヲ傾倒セシメ以テ船復ノ増配ヲ前提セズシテ鐵鋼ノ増産ヲ確保シ大ニ戰力ノ増強ニ資セントス之ガ豫算的措置トシテハ第八十四議會ニ於テ昭和十八年度以降二箇年度内ニ總額ニ八〇〇〇〇〇圓ノ範圍内ニ於テ國庫ノ負擔トナルベキ契約限度額ノ協賛ヲ經ヨリ

實施ノ現況
本件ニ關シテハ既ニ普通鐵鋼、特殊鐵鋼ヲ通ジ軍需監理部及鐵鋼統制會ト連絡ノ上鐵鋼原單位報獎金制度適用工場ヲ指定スルト共ニ原單位量ヲ決定シ適用工場毎ニ配賦シテ之ガ目的完遂ニ邁進セシメツツアリ

④鐵鑽石價格調整補給金
事業計畫

決戰完遂ノ爲ニハ鐵鋼ノ劃期的増産ヲ必要キスルニ船腹不足ニ因リ海外製鐵原料就中鐵鑽石ノ取得ハ極テ困難ナル事情ニテアルヲ以テ之ニ代替セシムル鐵鋼資源ヲ内地或ハ外地ニ於テ強力ニ開發セシムル要アリ而モ其ノ量ハ極メテ尠大ニシテ且ツ一刻ヲ爭フ現狀ニ於テハ凡ユル採算的總理性ヲ無視シ所要量ノ確保ニ邁進セシメツツアリ之ガ爲鐵鋼生産價格ハ不可避的ニ著騰スベキニ應ジ製鐵業者ニ對スル供給價格ヲ引上グルトキハ其ノ採算ヲ壓迫乃至ハ資金繰ヲ困難ナラシムル等重大ナル影響ヲ及ボスニ至リ延テハ鐵鋼ノ活潑ナル生産意慾ヲ萎縮セシムル懼アリ

右ニ鑑ミ昭和十九年度以降一定ノ統制機關ハ鐵鋼原料統制株式會社ニラシテ各鑛山業者ヨリ適正生産費ニ基ク價格ヲ以テ買取ラシメ一方製鐵業者ニ對スル販賣價格ハ昭和十八年度價格ヲ据置カシムル如ク價格操作ヲ行ハシメ以テ製鐵部門ニ對スル惡影響ヲ遮斷シ同社ニ生ジタル損失ヲ國庫ニ於テ補給セトスルモノナリ

之ヲ豫算的措置トシテハ第八十四議會ニ於テ昭和十九年度以降二箇年度内ニ總額五〇〇〇〇〇〇〇圓ノ範圍内ニ於テ國庫ノ負擔トナルヲ契約限度額ノ協賛ヲ經タス

(四) 實施ノ現況

本件ニ關シテハ鐵鋼原料統制株式會社及鑛山統制會ト共ニ十九年度經費増嵩額ヲ慎重検討中ニシテ之ガ成案ヲ得タル上具體的措置ヲ採ル可ク銳意準備中ナリ

(四) 小型熔鑛爐統鐵價格調整補給金

(イ) 事業計畫

鐵鋼ノ生産確保ヲ圖ランガ爲現下輸送力ノ逼迫ニ對處シ急激ナル増産ヲ要請ニ應ヘシガ爲曩ニ閣定セラレタル所ニ依リ小型熔鑛爐ヲ急設シ促進シタリ

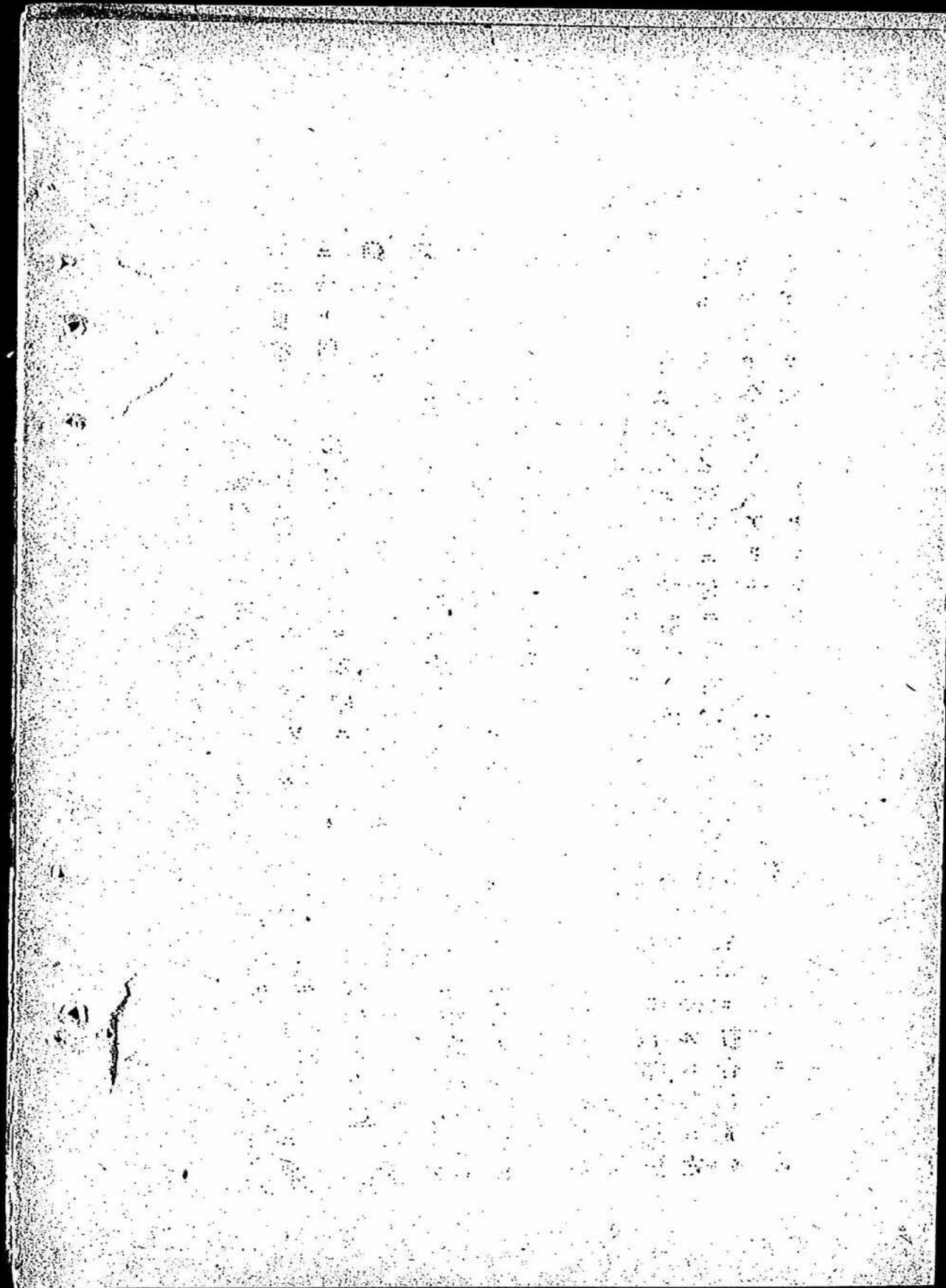
之ガ爲建設費ノ割高ト效率上問題多キ小型簡易ナル設計ニ依リ且使用原料自給ノ建前上其ノ良否ハ論外トモラルル等經濟性ヲ度外視セル操業ヲ施行セシムル爲其ノ生産費ハ高價トナルヲ免レザルヲ以テ一定ノ

統制機關(鐵鋼原料統制株式會社)ヲシテ夫々適正生産費ヲ基礎トシテモル價格ヲ以テ買取現行公定價格ヲ以テ販賣セシムル所謂價格操作ニ依リ同社ニ生ジタル損失ヲ國庫ニ於テ補給シ以テ鐵鋼ノ生産ヲ適進セシトス

之ガ豫算的措置トシテハ第八十四議會ニ於テ昭和十九年度以降二箇年度内ニ總額一三三〇〇〇〇〇〇圓ノ範圍内ニ於テ國庫ノ負擔トナルヲ契約限度額ノ協賛ヲ經タリ

(四) 實施ノ現況

本件ニ關シテハ何分最近ニ於テ生産ヲ見タリ關係上製造原價ノ算定資料ニ乏シク早急ニ國庫補給金額ヲ決定スルニ困難ナルモ既ニ之ガ原價算出方法ノ細部ニ付テ關係各廳及鐵鋼統制會等ニ打合ヲ了シテ着々整備ヲ急ギツツアリ一方製品ハ鐵鋼原料統制株式會社ニ於テ假價格ヲ以テ賣買ヲ行ヒツツアリ



大

鐵鋼局
19.7.17
第3866號

大日本帝國政府

一九軍會課第一一四九號

昭和十九年七月十七日

軍需大臣官房 會計課長

鐵鋼局長 殿

鐵鋼局
19.7.17
接受

醫省會計實地検査ノ爲必要ノ趣ヲ以テ左記調書提出方検査官ヨリ照會有之候様各五通七月二十五日迄ニ送付相成度有照會ス

記

- 一 昭和十八年度各種補償金、補助獎勵金等交付事業ノ施設概要（別表第一號様式調書添附）
- 一 昭和十七年度以前ニ於ケル補助金ノ十八年度末精算未済額調（別表第二號様式）
- 一 昭和十九年度新規事業計畫及實施ノ現況

裏面白紙

大日本帝國政府

別表第一號

昭和十八年度補助金交付額調

科目	交付年月日	補助額	申請者	補助事業費 豫算額	決算額	精算上 過不足額	決算報告及返還 命令年月日

裏面白紙

大日本帝國政府

別表第二項

昭和十七年度以前ニ於ケル補助金ノ十八年度末精算未済額調

科目及年度別

交付先	補助額	査定繰算額 決算額	返還所受額	決算報告 年月日	返還命令 年月日	返納年月日

備考 科目別及年度別合計額ヲ記載ノコト

裏面白紙



1920年 第 1219 號

昭和十九年 第 1219 號

接受 昭和十九年三月四日

起案マデ 起案ヨリ

決判 昭和十九年三月拾日

施行 昭和十九年三月拾日

洋紙回議用紙

鐵鋼局長

配給課長

製鐵課長



松本

電力節約及火氣取締ニ関スル件

案ノ一

年 月 日

局長 名

大臣官房會計課長宛

件名



首題、件ニ関シ三月一日附一九會第一七ニ號及一七三號
ヲ以テ通牒相成候處電力節約及火氣取締責任者ハ
左記、通リ候條此段報告候也

記

室名	責任者官職氏名		備考
	官職	氏名	
鐵鋼局長附	單需官補	大木 茂	
製鐵課		田村ニ三雄	
特殊鋼課		角田 雄三	
配給課		齋藤 三夫	

案、二

年月日

局長 答

各局員宛

件 名

首題ノ件ニ関シ左記ニ依リ電力節約ノ徹底火氣取締ノ万全ヲ期セラレ度此段及通牒候也

記

一 電力節約ノ徹底實施

(一) 不用時及執務時間終了後ハ絶對ニ電燈ヲ點ケ放シニセヌフト

(二) 執務場所ノ電燈ハ成ル可クネリド使用電力ノ電燈下ゲテ使用シ且ツ之ニ出來ル限り反射笠ヲ取付ケルト共ニ器具及電球ノ清掃ヲ勵行スルフト

(三) 電力節約責任者ハ適時室内ノ点檢ヲ勵行スルフト持ニ退廳後ノ消燈勵行ニ努ムルフト

(四) 勤務場所ニ於テ電力節約ニ協力スルド共ニ各自ノ家庭ニ於テモ一般公衆ニ率先極力節電ヲ實行スル

施行注意
自負責任
可長年々々保
一様ニ保
ルフト

コト

二 火氣取締、喫煙

一 各室責任者ハ常時之ガ指導監督ヲ為スト共ニ特ニ退廳ノ際ハ点檢ヲ勵行スルコト

二 各室責任者以外ノ者モ極力協力スルコト

三 右ニ項ノ責任者ヲ左ノ通り定ム

室名	責任者官職氏名	備考
鐵鋼局長附	單曹補 大木 茂	
製鐵課	田村ニ三雄	
特殊鋼課	角田 雄三	
配給課	齋藤 三夫	

一九會第一七二號

昭和十九年三月一日

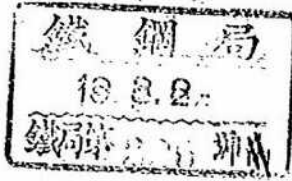
(別紙添附)

軍需大臣官房 會計課長

鐵鋼局長殿

官公署ノ電力節約徹底實施ニ關スル件

標題ノ件ニ關シテ官會議ニ於テ別紙ノ通申合相成候事付テハ委細ハ右ニ依リ了知ノ上可然配意相成度尙電力節約責任者ノ官職氏名ヲ報告相成度此段及通牒候也



裏面白紙

裏面白紙

内閣閣甲第三〇號

昭和十九年二月二十一日

内閣書記官長

中央航空研究所長	技術院總裁	情報局總裁	賞勳局總裁	法制局長官	各省次官
殿	殿	殿	殿	殿	殿

(各通)

官公署ノ電力節約徹底實施要領ニ關スル件

標記ノ件本日次官會議ニ於テ別紙ノ通申合致候條實施方然ルベク御配意相成度此段通牒ニ及ビ候

官公署ノ電力節約徹底實施要領

第一、方針

二月十八日ノ閣議ニ於テ諒解ヲ見タル「電力節約運動實施要領」ニ則リ官公署ノ電燈及電力ハ一級電燈及電力ノ消費減正ニ準シ特ニ率先垂範シテ徹底糾ナル節電ヲ強力ニ實行スルコト

第二、實施組織

電力節約ノ實效ヲ擧グル爲電力節約實施ノ組織ヲ左ノ如ク定ムルコト

一 各省ハ會計課長（又ハ廳内取締擔當課長）ヲ以テ所屬官廳ニ於ケル電力節約實施ノ責任者トシ所管官衙ニ於テ節約運動ノ趣旨徹底ノ實效確保ニ努ムルコト

二 各省所管官公署ノ長ハ電力節約責任者ヲ定メ、本要領ニ依ル節約ヲ推進シ、其ノ實施狀況ヲ適時各省責任者タル會計課長（又ハ廳内取締擔當課長）及所屬長官ニ報告セシムルコト

第三、實施方法

電力節約ノ具體的實施方法ハ左ノ要領ニ依ルコト

- 一 不用時及執務時間終了後ハ絶對ニ電燈ヲ點ケ放シニセヌコト
- 二 玄關、廊下、便所等ノ電燈ハ極力燈數及燭光ヲ減ラヌコト
- 三 執務場所ノ電燈ハ成ル可ク、スタンドヲ使用スルカ、又ハ電燈ヲ下ゲテ使用シ且ツ之ニ出來ル限り返射笠ヲ取付ケルト共ニ器具及電球ノ清掃ヲ勵行スルコト
- 四 天井取付燈モ極力低燭光ノモノトシ、スタンドヲ使用スル場合又ハ電燈ヲ下ゲテ使用スル場合ノ電燈ノ大サハ最高四十燭又ハ四十ワットトスルコト
- 五 エレベーターノ使用ヲ取止メルコト、已ムヲ得ズ使用スル場合モ使用臺數ヲ減ラシ且一階五階及最上階間ノ直行運轉トスルコト
- 六 暖房用電熱器及電氣湯沸器ハ絶對ニ使用セヌコト
- 七 各官公署ノ電力節約責任者ハ適時廳内ノ巡視ヲ勵行スルコト、特

ニ退應後ノ消燈勵行ニ努ムルコト、尙出來ル丈度々電氣計量器ヲ讀
ミ割當電力量ヲ遵守スルハ勿論、從來ノ使用量ノ半減ノ目標ヲ達成
スルコト

ハ官公營工場、事業場等ノ電力ハ一般工場、事業場ニ率先シ電力使用
ノ合理化ニ努メ、特ニ事務所、寄宿舎、官公舎等生産ニ直接關係ナ
キ電力ヲ極力節減スルコト

ハ各官公吏ハ勤務場所ニ於テ電力節約ニ協力スルト共ニ各自ノ家庭ニ
於テモ一般公衆ニ率先極力節電ヲ實行スルコト

一九會第一七三號

昭和十九年三月一日

大臣官房 會計課長

別紙添附

鐵鋼局

火氣取締ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ次官會議ニ於テ別紙ノ通申合相成候ニ付テハ火氣取締ニ關スル擔當者ニ協力ノ上之ガ爲全ヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

製鐵課長

特殊鋼課長

配給課長

鐵鋼局長

鐵鋼局
19.3.2-
鐵鋼局 辨

別送局々々 回附人

裏面白紙

内閣閣甲第三一號

昭和十九年二月二十一日

内閣書記官長

各省次官殿（各通）

火氣取締ニ關スル件

標記ノ件本日次官會議ニ於テ別紙ノ通申合致候條然ルベク御配意相成度
此段通牒ニ及ビ候

火氣取締ニ關スル件

昭和一九二二年
次官會議申合

近時官公署學校等ノ火災ノ少カラザル實情ニ鑑ミ内閣及各省ニ於テハ
爾今左記ニ依リ火氣取締ヲ一層嚴ニスルト共ニ、之ニ關スル責任ヲ明
ニシ、以テ火災ノ豫防ニ勉ムルモノトス

記

内閣及各省ニ於テハ各建造物毎ニ火氣取締ニ關スル擔當者ヲ指名ス
ルコト。
前項ノ擔當者ハ部下ニ對シ火氣取締ニ關スル分擔ヲ命ジ常時指導監
督ヲ行フコト。
萬一火災ヲ生ジタル場合ニ於テハ管選責任者、火氣取締ニ關スル擔
當者及之ニ關シ分擔ヲ命ゼラレタル者ハ最モ重キニ從ヒ責ヲ負フコ
ト。



昭和十九年 第 2522 號

接受 昭和十九年五月十日
起案 昭和十九年五月十日
接受ヨリ 起案マデ
ノ日數

鐵鋼局長
製鐵課長
19510

日
施行 昭和十九年五月十日
決判 昭和十九年五月十日

洋紙同護用紙

所得稅法施行地内外ヨリ轉住者所得ノ件回答
案示

年 月 日

白 長

大臣官房會計課長宛

五月五日附一九軍人會第六七六號ヲ以テ照會首題
ノ件ハ別紙ノ通回答ス

施行注意

別紙一部添附ノコト

別紙

大日本帝國政府

昭和十八年一月以降ニ於ケル所得税法施行地外ヨリノ

轉住者ノ勤勞所得ニ関スル調

鐵鋼旬

(國定規格B121×37)

年月日	轉住	轉住前ノ勤勞所得	轉住者初	同	十八年中	同	十九年中	住所	氏名
一九三三	勤勞先	勤勞先	月額	諸手当	賞與類	換算年額	見込額	牛込區加賀町 府田 恒方	皆川 良三
七ノ三	セレス民取却	セレス	二三四八三	二三〇八	/	/	二一五〇		

裏面白紙



鐵鋼局
19.5.6
鐵鋼第252號



大日本帝國政府

一九軍會課第六七六號

昭和十九年五月五日

軍需大臣官房會計課長 岡村 武

鐵鋼局長 殿

所得稅法施行地内外ヨリ轉住者ノ所得ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ東京財務局長ヨリ別紙寫ノ通り依頼有リタルニ付關
查ノ上五月二十日限り回報セラレ度

鐵鋼局
19.5.8
接受

裏面白紙

大日本帝國政府

直一第一五一號

昭和十九年四月二十八日

東京財務局長

軍需大臣官房會計課長 殿

所得税法施行地内外ヨリノ轉住者ノ所得ニ關スル件

最近内地下滿、支、南方諸地域トノ往來繁ク之ガ爲所得稅ヲ課稅スベ
カラザルモノヲ課稅シ又ハ課稅スベカリシモノヲ課稅セザルモノアリ
テ後日納稅義務者ニ迷惑ヲ及ボス事例等アリタルヲ以テ事前ニ於テ出
來得ル限り限膠決定ヲ防止致シ度ニ付御事務中トハ被存候ヘ共貴職員

裏面白紙



大日本帝國政府

ニシテ昭和十八年中ニ内地ヨリ所得税法施行地外（朝鮮、臺灣、樺太、
關東洲、南洋群島ヲ除ク以下同シ）ニ住居所ヲ移シタル者ノ氏名等及
昭和十八年一月以降現在迄ニ所得税法施行地外ヨリ内地ニ轉^住シタル
者ニ對スル給與（俸給、給料、報酬手當及賞與）ノ支拂狀況ヲ別紙様
式ニ依リ至急御調査ノ上御回報相成度
右及御依頼候也

道ヲ實際分ハ内局タルト外局タルトヲ問ハズ總テ貴官ニ於テ御取纏
メノ上御回報相煩度

尙今般ノ所得税法ノ改正ニ依リ年ノ中途ニ於テ所得税法施行地外ヨ
リ内地ニ轉住シタル者ニ付テハ其ノ年ノ收人ヲ豫算又ハ年額ニ換算
シテ所得税ヲ課スルコトト相成候ニ付爲念申添候

裏面白紙

大日本帝國政府

(様式)

所在地
名稱

昭和十八年中ニ所得稅法施行地外へ轉住シタル職員ニ關スル調

轉住先 地域	轉住ノ 理由	轉住ノ 直前ノ 任所			氏名
		官職	部屬	官等俸給	

備考 一 應召又ハ入營ニ依リ施行地外へ轉住シタ方ハ舊カナイテ下サイ

二 「轉住先ノ地域」欄ニハ「滿洲國」「中華民國」「南方地域」等トオ書キ下サイ

三 「轉住ノ理由」欄ニハ「陸軍司政官トシテ赴任」「滿洲國官吏トシテ招聘」等トオ書キ下サイ

裏面白紙

大日本帝國政府

(様式)

昭和十八年一月以降ニ於ケル所得税法施行
地外ヨリノ轉任者ノ勤勞所得ニ關スル調

所在地
名稱

轉任者ノ勤勞關係	轉任前ノ勤勞關係	年月日	勤務先	所在地	轉任當期 俸給給料 額	同上 十八年中 ノ支拂賞 額	同上 十九年中 ノ支拂賞 額	十九年中 ノ支拂賞 見込額	住所氏名
同	同	一九三〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
其五	其五	一九二二	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
同	同	一九二二	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
同	同	一九二二	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
同	同	一九二二	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

裏面白紙



大日本帝國政府

備考

- 一 同上十八年換算年額欄ニハ十八年中ノ賞與ガ轉任後ノ勤務期間ニ對シ支拂ハレタルトキ（記載例其ノ一）又ハ轉任前ノ支店等ノ勤務期間ヲ通算シテ支拂ハレタルトキニ（記載例其ノ二）同一人ガ十八年一月ヨリ内地ニ居タ場合ニ支拂ハレタルトキニテアラウ賞與額ヲ記載シテ下サイ
- 二 十九年中ノ支拂賞與見込額欄ニハ十九年一月以降内地ニ轉任シタル者ノ十九年中ノ支拂賞與見込額ヲ記載スルモノニシテ（記載例其ノ三）十八年轉任シタル者ニ付テハ記載ヲ要シマセン

裏面白紙

19鐵局第5388号合併

昭和 19 年 第 4675 號

接受	昭和 年 月 日	接受ヨリ 起案マデ ノ日數	日	施行	昭和十九年十月三日
	昭和十九年十月三日				
起案	昭和十九年十月三日				
製鐵課長					
昭和十九年度臨時地方廳費配付件回答					
案					
年月日					
局 署					
兵庫縣 經濟第二部宛					
件名					

日本標準規格 B5 (182x257mm)

首題ノ件ニ関シ兵物統策ニ六ニロ号ヲ以テ照會有之タル處當局ヨリ
内務省所管トシテ貴縣ニ配付セラルベキ經費ハ左記ノ通ニ付此段回答ス

記

一、鐵鋼使用制限許可制度整備ニ要スル經費 一、六一五円

(屬スル技手一人、賞與、廳費、内國旅費)

二、鐵屑調査ニ要スル經費 一、五八八円

(屬スル技手一人、賞與、廳費、内國旅費)

鐵鋼局

19.10.3.

第5370號

本件ニ關スル回答ヲハ照會ニテ
必ズ本番號御記載ヲ乞フ

兵物統第二六二〇號 五

昭和十九年九月三十日

兵庫縣經濟部二部物資統制課長

兵庫縣
物資統制課
長

軍需省 鐵鋼局 御中

昭和十九年度ニ於ケル地方廳費及臨時地方
廳費配付ニ關スル件

貴局ヨリ例年本縣ニ御配付ノ經費御内示リ件ニ關シ兵物統制
二六二〇號ヲ以テ内容御照會申上候處末々御回答不得右ハ内
務省ヨリ地方廳ニ配付ノ經費一括令達ノ爲其ノ内容不明ハ豫
算編理上支障ヲ來ス状態ニ有之御多忙申被々添綴ニ存候得共
御調査ノ上御御同示相煩度重而御依頼候也
尙該當無十場合モ其ノ旨御通知願度

鐵鋼局
19.10.3
按字

兵庫縣

(H.R. 121)

裏面白紙

本件ニ關スル回答又ハ照會ニハ
必ズ本番號御記載ヲ乞フ

爲一

兵 物統第 二六二の 號五

昭和十九年九月十五日

兵庫縣經濟第二部長

鐵 鋼 司 御 中

昭和十九年度ニ於ケル地方廳費及臨時地方廳費配付
ニ關スル件

貴司ヨリ例年本縣ニ御配付ノ經費御内示ノ件ニ關シ兵物統第
二六二〇號ヲ以テ左記内容御照會申上候處未ダ御回答ヲ不得
御多忙中甚ダ恐縮ニ存候共御調査ノ上御回示相煩度重ネテ御
依頼候也

追而從來御配付ノ經費ノ外新規配付經費ニ付テモ併而相願
度

記

一 鐵鋼製品ノ生産配給統制ニ要スル經費

一 鐵屑調査ニ要スル經費

一 鐵鋼製品ノ生産配給統制ニ要スル經費

兵 庫 縣

裏面白紙

鐵鋼局

19. 8. 30

鐵鋼局

本件ニ關スル回答及ハ照會ニハ
必ズ本番號御記載ヲ乞フ

兵物統第ニシテの號

昭和十九年八月十四日

兵庫縣經濟第三部長

軍需省 金屬局長 殿

昭和十九年度地方廳費及臨時地方廳費配付經費ニ關スル件

貴局ヨリ例年本縣ニ御配付ノ經費ニ付内示相成居候處本年度分未ダ
通知無之予算經理ノ都合上必要有之候間御多忙中恐縮ニ候共御調査
ノ上御回示相煩度及御依頼候也

記

追テ從來御配付ノ左記經費ノ外新規配付經費ニ付テモ併而相願度

鐵、鋼製品等ノ生産配給統制ニ要スル經費
鐵、鋼及白金ノ消費統制ニ要スル經費

兵庫縣

裏面白紙

本件ニ關スル回答及ハ照會ニハ
必ズ本番號御記載ヲ乞フ

寫

部

兵物統第 21110 號

昭和十九年八月十四日

兵庫縣經濟第二部長

軍需省 鐵鋼局長 殿



昭十九年度地方廳費及臨時地方廳費配付經費ニ關スル件
貴司ヨリ例年本廳ニ御配付ノ經費ニ付内示相成居候處本年度分未ダ
通知無之予算經理ノ都合上必要有之候間御多忙中恐縮ニ候共御調査
ノ上御回示相煩度及御依頼候也

記

追テ從來御配付ノ左記經費ノ外新規配付經費ニ付テモ併而相願度

- 鐵、鋼製品ノ生産配給統制ニ要スル經費
- 鐵屑調査ニ要スル經費
- 鐵、鋼使用制限許可制度ニ要スル經費

鐵鋼局

10.8.19

兵庫縣

裏面白紙

昭和十九年鐵路第 6760 號

接受 昭和十九年十二月十四日

起案マデ
ノ日數

決判 昭和十九年三月拾六日
施行 昭和十九年三月拾六日

製鐵課長
鐵鋼局長

アルミニウム緊急動員要綱ニ関スル件

立案

昭和十九年 月 日

昭和十九年三月拾六日

局長

軍需大臣官房會計課長宛

件

名

一九軍會計課第六八九號ヲ以テ賬會ニ係ル標記

件當局該當物件無之亦同答之

〇

〇

〇

一九二九年二月十一日

昭和九年二月十一日

單需大臣官房 會計課

鐵鋼局長 殿

アルミニウム緊急動員要綱ニ關スル件通牒

標題ノ件別紙爲ノ通決定ニ付該部切件調査表ヲ所定ノ様式ニ基キ試

査調査ノ上折返シ回答ヲ成

向調査表記入ニ當ツテハ左記ニ留意セラレ度

一 調査表ハ第一表、第二表、第三表、第四表、第五表、第六表、

第七表、第八表ノ各表別ニ貳部宛調査ノコト

様式ノ註ニ留意ノコト

6760

第五方 釘

大東亞戰ノ決戦ヲ左右スル航空機ノ急速増産ヲ期スル爲アルミニウムノ動員ヲ緊急ニ實施シ以テ決戦必勝態勢ノ確立ニ萬進ヲナカラシム

第六方 法

軍官民需ノ如何ヲ問ハズ航空機以外ノ用途ニ使用セラレアルアルミニウムヲ嚴格ニ管理シ其ノ絶対不可缺ナルモノト認モ之ヲ使用量ノ極減ニ努メ其ノ然ラザルモノハ使用停止並ニ供出ノ隱匿物資ノ供出ヲ含ムニセシムルモノトシ此等ニ關シ國家權力ヲ以テ斷行スルモノトス

(一) 軍需省内ニアルミニウム動員協議會ヲ設置シ動員ノ具体的事項ヲ策定スルコト

(二) 各省ハ十二月十日迄ニ左ノ區分ニ従ヒ別ニ定ムル調査表ヲ前項協議會ニ提出スルコト

① 廢品(祭禮品ヲ含ム)トシテ供出可能ナルモノ

② 現用中ノモノ

③ 加工品ノモノ

④ 製品(半製品ヲ含ム)在庫中ノモノ

⑤ 素材現物確保中ノモノ

⑥ 乃至⑤中代用不可能ナルモノ

⑦ 乃至⑥中代用可能ナルモノ

⑧ ⑦中即時動員可能ナルモノ

⑨ 乃至⑧ハ塊、液、棒、線、箔、粉、鑄物ヲ主体トシテ區分ス

要領

(一) 動員ノ實施ハ左ノ段階ニ分ツモノトス

(二) 即時動員

左記ニ付十二月中旬迄ニ竣動ヲ完了スルコト

①ニ該当スルモノ

⑧ニ該当スルモノ

(三) 第二動員

即時動員ヲ終ク殘存ニ付使用量極限、使用停止、代替物資製作等ニ關シ十二月下旬迄ニ協議會ニ於テ方針ヲ決定シ一月下旬迄ニ竣動ヲ完了スルコト

(四) 家庭回收ニ付テハ加延動員計畫ヲ研究決定スルコト

第四 指 直

(二) 動員ノ實施ニ當リ所要ノ法令的措置ヲ果敢ニ實施スルコト

(一) 關係省ハ各其ノ責任ニ於テ直接關係アル加工工場(下請及修理ヲ含ム)、倉庫(營業ヲ含ム)、使用箇所等凡ソアルミニウムヲ使用シ、保管シアル現物ニ對シ査察ヲ行ヒ、動員ニ要スレバ即時動員ノ一部ヲセ含ム)ノ徹底ヲ期スルモノトス

十二月下旬迄 査察員施設策定

一月中旬迄 査察 了

一月下旬迄 動員策定

備 考

(甲) 軍需省ヲ除ク各省査察ニハ所要ニ應ジ軍需省ヨリ委員ヲ差出スル

(乙) 軍需省査察ニハ所要ニ應ジ陸海軍省ヨリ委員トシテ参加セシムルコト

(丙) 各省査察ニシテ査察ノ實施ノモノニ對シテハ協議會ニ於テ決定セラレザル限リ其ノ使用又ハ保管ヲ認メズ之ガ回收ヲ強行スルモノトスルコト

(四) 企業設備本部ハ査察(員上ヲ含ム)輸送等ニ關シ速ニ實施要領ヲ策定スルコト

(五) 軍需省ハ本件動員ニ依ルアルミニウムニ對スル特種課(品位向上ノ爲ニスル新設ノ特種課ヲ含ム)ノ計畫ヲ樹立シ所要ノ措置ヲ總括ナク辦スルコト

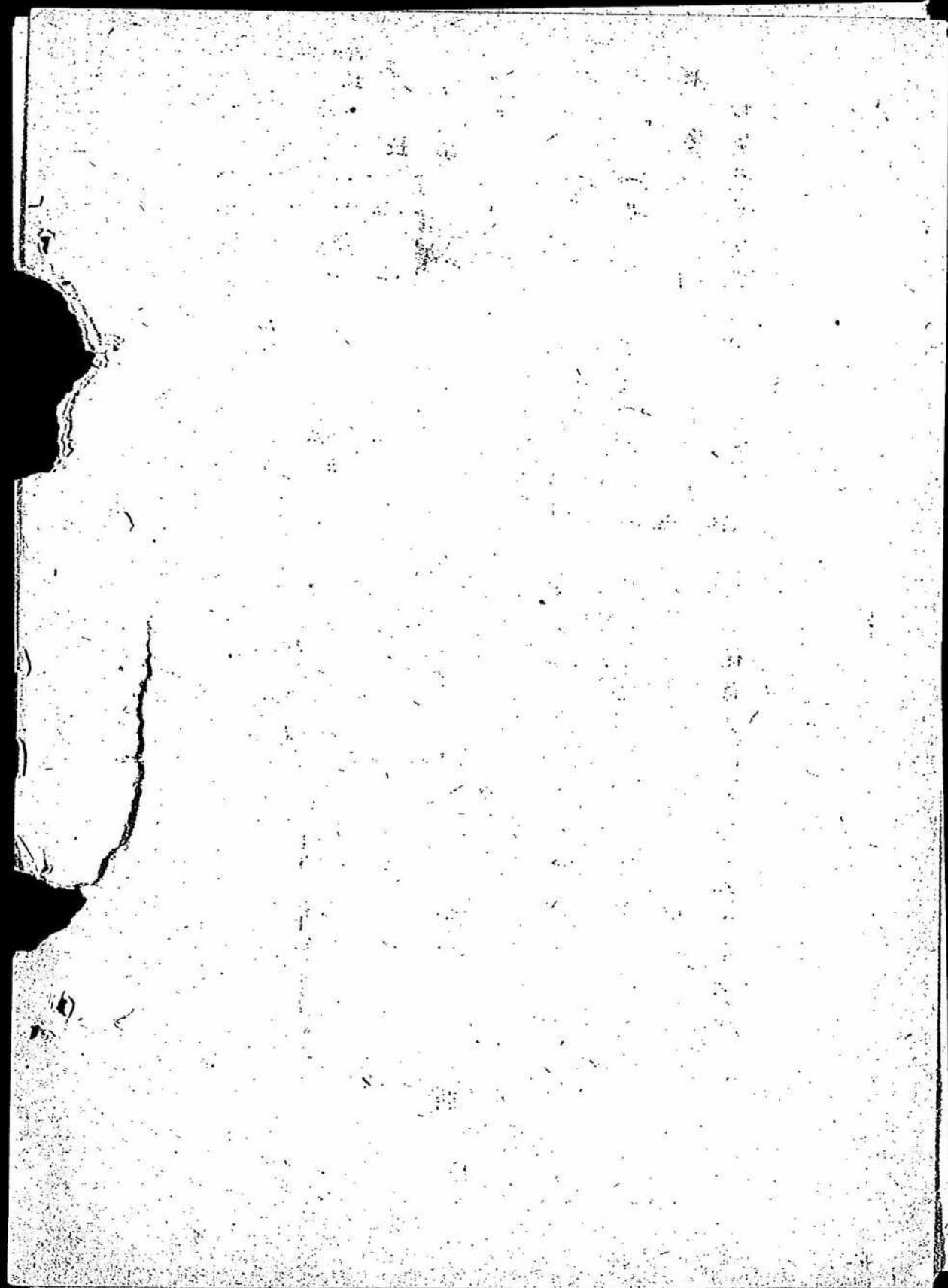
本件ニ關シ 於テモ本要綱ニ準ジ實施スルモノトス

アルミニウム動員協議會名簿

長	(軍)	總動員局長	(全)	級
次長	(陸)	總動員局第一部長	(全)	級
幹事	(陸)	戰備課長	(A)	關係總括
	(海)	兵備第二課長	(B)	B _x
	(軍)	航兵總務課長	(D)	
	()	第一部第一課長	(O ₂)	ヲ除ク關係
	()	第一部第二課長	(U ₂)	
	()	經企局アルミ課長	(配給)	
	()	企需本部總務課長	(回收)	

備 考

所要ニ應ジ部會ヲ隨時設ケ又關係省關係員ノ出席ヲ求ムルモノトス



(様式)

第一表塊、第二表板、第三表棒、第四表線、第五表箔、第六表粉、第七表鋳物ニ分ツ

		① 製品(禁製品ヲ含ム) トシテ供出可能ナルモノ	② 現用中ノモノ	③ 加工中ノモノ	④ 製品在庫中ノモノ	⑤ 素材現物確保中ノモノ	計
總括	數量						
	用途別内詳						
⑥ 代用不可能	數量						
	内詳						
⑦ 代用可能	數量						
	内詳						
⑧ 即時ノ動員可	數量						
	内詳						

- (註) 1. 代用不可能及代用可能ノモノハ別ニ明細表(様式適宜)並ニ代用可能ノモノハ其ノ代替資材表(様式適宜)ヲ添付スルコト
 2. 各表ハ夫々數枚ニ涉ルモ差支ナキコト

裏面白紙